



九州クルーズ振興協議会 令和6年度総会 九州クルーズセミナー

日 時：令和6年7月31日（水）13時30分～16時00分

場 所：オリエンタルホテル福岡 博多ステーション 3階 「YAMAKASA」

議 事 次 第

【総 会】（13：30～14：10）

1. 開 会

2. 挨拶

九州クルーズ振興協議会	会長	青柳 俊彦
九州運輸局	次長	森 有司

3. 議 題

- (1) 令和5年度事業報告について
- (2) 令和5年度収支報告について
- (3) 令和6年度事業計画（案）について
- (4) 令和6年度予算（案）について
- (5) 役員改選（案）について
- (6) 最近の情勢について（報告）

国土交通省海事局外航課課長補佐 楠山 賀英 様

国土交通省九州地方整備局

港湾空港部クルーズ振興・港湾物流企画室長 佐藤 鉄志 様

4. 閉 会

【九州クルーズセミナー（海事振興セミナー）】

（14：20～16：00）

(1) 14:20～14:45

講師：国土交通省海事局外航課課長補佐 楠山 賀英 様

テーマ：我が国のクルーズ振興における課題

(2) 14:45～15:10

講師：日本国際クルーズ協議会副会長 糸川 雄介 様

テーマ：アジアにおける日本のクルーズの展望

(3) 15:10～15:35

講師：一般社団法人クルーズイズム代表理事 久野 健吾 様

テーマ：クルーズの魅力と発信の重要性

(4) 15:35～15:55 質疑応答

講師の皆様



楠山講師



糸川講師



久野講師



会場風景





我が国のクルーズ振興における課題

国土交通省海事局外航課

課長補佐 楠 山 賀 英

日時 令和6年7月31日（水）
場所 オリエンタルホテル福岡 博多ステーション

主催 九州クルーズ振興協議会
（公財）九州運輸振興センター
助成 日本財団
後援 J R九州

国土交通省海事局外航課にこの4月から着任いたしました。クルーズ振興をどのように進めてゆくかのミッションを持ち、情報の整理等を行っているところです。

本日は行政の立場でクルーズ振興における課題と方向性についてお話しをさせていただきます。

クルーズ関連産業の発展に向けた取り組み、市場におけるクルーズへの理解を促進し、さらにその裾野の拡大を図るために今できることを提案して行きたいと考えております。

また、旅行市場におけるクルーズの立ち位置等についても触れたいと思います。

まず人流動向ということと近年における日本の出入国者の推移を見てみたいと思います。（資料1）

2015年から2023年の8年間で出入国者数はいずれもコロナ禍前の2019年にピークを迎えています。規模感としては訪日外国人が3,188万人、日本人出国者数は2,008万人でした。

コロナ禍でこれらは一旦、完全に途絶えましたが、旅行業界が海外旅行の再開準備を進め始めたのが2022年頃からでしょうか。私の前職

は旅行会社勤務ですが、個人向けの旅行市場では、同年のゴールデンウィークシーズンに、ハワイの商品でスタートを切り、海外旅行市場を伸ばすための下地作りを模索しました。この頃を契機に海外旅行は様々な方面の再開準備が進みましたが、出国者数の伸びとパッケージ旅行による日本の海外旅行者数の伸びはパラレルに進みませんでした。

その理由のひとつとしてはコロナ禍が一定の落ち着きをみせても海外への渡航は観光旅行、即ち私的なことよりもビジネス渡航が先行しており、一般の海外旅行はレジャーによる渡航を取り巻く環境及び、旅行価格の面で本格回復へ向かうには、ほど遠い状態だった為と考えています。環境面で言えばコロナの感染リスクがまだ払拭できない状態の中、小さい子供を連れて海外への家族旅行には到底出かけられないといった心理は必然であったと考えています。2022年の市場再開を受けても海外旅行の動きは長らくの間、鈍化した状態から抜け出す機会を得られずに時間が経過して行きました。

2023年5月のゴールデンウィーク明けにコロナウイルス感染

症が感染法上の2類から5類に位置付けられ、いよいよ海外旅行が本格的なスタートを切れるという期待がありました。その後の状況は皆様もご承知の通り長引く円安の影響等もあり、今も伸び悩んでいます。ちなみにアメリカドルに関して言えば、今朝の為替は1ドルあたり152円でした。一時の160円を考えると落ち着きは始めているのかなという印象はあります。

次に、私が海外旅行を提供する立場で実感したこの状態を前提に、クルーズの人流動向について見て





アジアにおける日本のクルーズの展望

日本国際クルーズ協議会

副会長 糸川 雄介

日時 令和6年7月31日（水）
場所 オリエンタルホテル福岡 博多ステーション

主催 九州クルーズ振興協議会
（公財）九州運輸振興センター
助成 日本財団
後援 J R九州

日本国際クルーズ協議会の糸川と申します。

本日はアジアにおける日本のクルーズの展望ということで現在日本船、外国船を取り巻く状況から今後の日本市場の展望を考察します。

その前に日本国際クルーズ協議会について少し話を致します。

2021年まさにコロナ禍、世界中が国を閉ざしている状況が続いている中、日本にオフィスを置いている外国クルーズ船社、現在の正会員である8社9ライン9ブランドのクルーズ会社で立ち上げました。

また準会員は4業種から構成されていて、現在、27社となっています。

1つ目の業種として、日本にオフィスのない外国のクルーズ船社で、業界内ではジェネラルセールスエージェント（GSA）といわれ、日本において販売総代理店にあたるもの。

2つ目としては日本で日本人向けにクルーズを販売する旅行会社。

3つ目、例えばクルーズ船が入る港の岸壁手配などを行う船舶代理店。

4つ目、外国のクルーズ船が日本に寄港する時の寄港地観光を扱っているランドオペレーターです。

このようなメンバーで活動を行っています。

では、本題に入ります。

1. ラグジュアリークラス2023年日本発着（シルバーシーの例）

日本ではラグジュアリークラス、エクスペディション、このあたりの寄港が増えています。

私が2023年12月まで所属していましたシルバーシークルーズの乗客アンケートなどを元に、ラグジュアリークラスについてのお客様の傾向です。

シルバーシークルーズは2019年から日本発着クルーズをスタートさせました。

それまで日本への寄港はありませんでしたが、日本発で日本を周遊するクルーズを初めて行ったのが2019年ですが、2020年からコロナ禍となり、3年間の空白後、23年から再開をしました。

2023年は2隻日本に配船をしました。シルバー・ウィスパールとミューズという船において年間9回の日本発着クルーズを行いました。なぜこのような日本発着が増え

ているかというと、オリンピック開催地では1、2年ぐらい前から観光的地にもその国が注目されるということが1つ。

日本政府が観光立国ということを進めたことで、2020年ぐらいから今まで来てなかったようなクルーズ会社が一気に増えました。

日本発着クルーズの乗客の国籍をみると、残念ながら日本人はほとんど乗っていません。一番多いのは米国で30%、英国23%、豪・Z A 14%となっています。（資料1）

この外国人を中心とした乗船客のアンケートで評価されたポイントは、特に春先の桜のシーズンで、これは日本らしい風景ということでしょうか。

また地方都市、要は寄港した際の地元の人たちとの交流やあるいは前述の日本らしい風景などが高得点評価となりました。

一方で圧倒的な不評なポイントは英語ガイドのレベルでした。船が東京港に入る度に船に行きましたが、船の責任者であるホテルダイレクターからなんとかならないのかというクレームが非常に多く聞かれました。

高評価の日本らしい風景について



クルーズの魅力と発信の重要性

一般社団法人クルーズイズム

理事長 CEO 久野 健吾

日時 令和6年7月31日（水）
場所 オリエンタルホテル福岡 博多ステーション

主催 九州クルーズ振興協議会
（公財）九州運輸振興センター
助成 日本財団
後援 J R九州

皆様こんにちは。

一般社団法人クルーズイズムの理事長をしております久野と申します。

本業としてノルウェーのクルーズ会社、今年131年目を迎えるフツティールテンという船会社に勤務しています。

最初に、クルーズの魅力について12点ご紹介します。

1. 圧倒的な非日常

例えば非日常を求めてホテルに宿泊する方もいらっしゃると思いますが、クルーズでは桁違いの非日常空間と様々な寄港地があります。

2. 高いコストパフォーマンス

洋上のホテルとも呼ばれています。泊りが、宿泊、移動、飲食、そしてエンターテインメントまでが含まれる、オールインクルーシブ制を取り入れています。

3. 食事

朝昼晩の食事、それもビュッフェやコース料理、特にコース料理でもオーダー制の食べ放題といった形のスタンスをとっているクルーズ会社がほとんどです。

それ以外にも特別スペシャリティ

レストランもあり追加料金を払いワンランク上のサービス、そしてワンランク上のお料理を楽しめます。

またアフタヌーンティや軽食、そして夜中のミッドナイトビュッフェなどを提供しているクルーズ会社もあります。

4. エンターテインメント

船上にシアターがある船会社が多くなりましたが、夜のショーではブロードウェイスタイルだったり、ラスベガススタイルのような地上で鑑賞すれば1万前後ぐらいたるようなショーが見られます。本場に今自分たちは船の中にいるのだろかと思わせるようなダイナミックなショーも多くあります。

それ以外にもイベント、アクティビティやプールやカジノなどの施設も有しています。

5. 身軽さ

これもよく取り上げられますが、旅行の大荷物も乗船後に荷解きをし、下船前に荷造りするだけです。

そのため手荷物だけで身軽に寄港地観光が楽しめます。

6. 交流

クルーズ旅の魅力、醍醐味の一つと言われています。

長い航海をするうちお客様同士が

交流を深め「船友」と呼べるような仲間が出来たり、クルーズ旅が新しい出会いの場となることもあります。

実際に多くのお客様同士が仲良くなっています。

7. 絶景

船旅ならではのいうか、船上からでは見られない景色。これが本場に素晴らしい。陸路で行ったことがある場所でも海路から眺める景色は全く違うので新しい発見がたくさんあります。

8. 効率的な移動

これもよく言われることです。複数の国を跨ぐので、通常その度にホテルでチェックイン・チェックアウトをし、移動することとなります。しかしクルーズ旅では、寝ている間に次の寄港地、次の国へと効率的な移動ができます。朝起きたら新しい国、新しい景色、新しい街が待っています。

9. 家族旅行

2世代3世代などで楽しめます。ちなみに私自身も3歳の娘と何度もクルーズ旅をしています。幅広い年齢層が同じ船という空間の中でそれぞれ個々の楽しみ方ができるようになっています。